



# 女子同窓会の枠を超えて



西南ゆりの会会長

## 吉田扶久子

(商学68期)

この度、第18回西南ゆりの会総会において、会長をお引受けすることになりました吉田扶久子(68期、商学部商学科)でございます。

責任の重さをあらためて痛感していますが、三九名の役員、顧問の方々の心強い協力での運営にあたる事ができます。同窓生の皆様方のあたたかいご支援をどうぞよろしく願っています。

さて、ゆりの会では、毎月の例会、記念イベント、秋のつどい、名刺交換会、ミニサロン、シンポジウム等々女子同窓生のみならず、在学生や一般の方々

11号

西南学院大学女子同窓会  
(西南ゆりの会) 機関誌  
2003年9月1日発行  
発行人 吉田扶久子  
福岡市早良区西新6-2-92  
西南学院大学同窓会内

花を咲かせ、三代目洪田壽子さん(経済65期)の時代に実を結びました。これらの実から出た種はこれからもつと沢山の花を咲かせ、沢山の実を結んでいくことでしょうか。」と記されています。

今後は、二万三千名の女子卒業生のネットワークを更に強化、充実させ、そのパワーを女子同窓会の枠にとどまらず、西南学院大学同窓会が益々魅力溢れる元氣な会に発展するよう積極的に貢献してゆきたいと考えています。

同窓会は「何をしてくれるのか」ではなく、同窓会のために「自分は何かができるか」という発想で参加すれば、きつと素敵な出会いと発見があり、大きな人の輪へと広がってゆくとおもいます。どうぞ気軽に声をかけてください。一人でも多くの方の参加をお待ちしております。



「洪田前会長 お疲れ様でした！」

### 第16回「秋のつどい」案内

念願の新垣勉さん(神学部卒業)のコンサート開催の幸せにあずかりました。現在大活躍中の新垣さんは、幅広いレパートリーでハートフルなコンサートを全国各地で展開されています。

また、中学・高校の特別なお計いで四月開館のチャペルが会場となっております。晩秋の夕べのひととき新垣さんの深く心に響く歌声を、存分にお楽しみ下さい。

### ◆新垣勉コンサートの夕べ◆

・日時 二〇〇三年十一月二六日(水)

開場 午後六時

開演 午後六時三〇分 終演 午後八時

・会場 西南学院中学校・高等学校チャペル  
福岡市早良区百道浜一―一―

・入場料 三千円(全席自由・七五〇席限定)

・主催 西南学院大学女子同窓会(西南ゆりの会)

・後援 西南学院、西南学院大学  
西南学院大学同窓会

・入場券お申込・購入について

①同封の青色振替用紙に〒・住所・氏名・電話番号  
ご明記の上、代金を添えて郵便局でお申込下さい。

②〆切 九月三〇日(火)まで

③ご入金確認後、十月一日(水)より入場券(ハガキ)を発送します。当日会場受付にお示し下さい。

④先着順です。お早目にお申込下さい。

⑤多少ですが、十月六日から大学生協でも販売します。

⑥問合せ先 Ⅱ大学同窓会 (☎8331-7048)

※「白ゆり」は発送部数が限られており全同窓生にご案内出来ません。同窓の方々にお知らせ、お誘い下さいますようお願い申し上げます。男性のお申込みも歓迎いたします。

# 第15回「秋のつどい」——在学生の就職活動支援 先輩キャリアによるシンポジウム

一九八六年秋に母校教授による公開講座として出発した「秋のつどい」も、15回目を迎える事が出来ました。今回は記念の会として従来とは趣向を変え、在学生に参加してもらえらるシンポジウム形式での開催となりました。



二〇〇二年十月十六日(水)に西南会館大ホールで「私は就職戦線をこう渡った!! 先輩キャリアの経験談」をテーマに、学生に人気のある職場でご活躍中の卒業生五名を招き、これから就職活動を始める後輩達への実践的なアドバイスをいただきました。パネリストは、占部真美さん(フースウエスト航空・国際87期)、重岡美穂さん(西日本新聞社・外英97期)、西山あきさん(福岡市役所・外英98期)、加藤かな子さん(JT B・商商01期)、日野祐子さん(西日本鉄道・法大01期)の方々と、コーディネーターとしてRKB毎日放送の納富昌子さん(外英76期)、アドバイザーに大学就職課の坂井啓課長のご協力をいただきました。

## 求められる努力

当日は、西南学院の伊藤隆夫理事長、L・K・シート院長、村上隆太学長もご来場になり、卒業生の健闘ぶりに熱心に耳を傾けておられました。会場を埋めた約二六〇名の参加者からは、仕事内容についての具体的な質問なども出され、就職活動を控えた在学生たちが会場内のあちこちでメモをとる姿が印象的でした。一九八六年に男女雇用機会均等法が施行されて15年余りが経ち、わが国でも男女共同参画の社会作りが進められておりますが、まだまだ女性の社会進出には厳しい面も残されているのが現状です。女性の側にも、制度に甘える

ことなく、一社会人としての能力を発揮するための努力が求められています。

## なりたい自分をイメージして



シンポジウムでは、「就職活動は、自己を知りそれを掘り下げる活動でもある。10年、20年後になりたい自分をイメージして、それに近づくために息の長い努力を続けてほしい。」  
「働くってどういうことを十分認識するとともに、これからは就社ではなく就職の意識を持つことが大事。」「お金をもらう仕事だけでなく、ボランティア活動も大切です。それらも含めた広い意味での仕事を通して、自分を成長させ人生を充実させることができるものを見つけて欲しい。」など、女性にとつての仕事に対する様々な角度からの意見が出されました。

最後に洪田壽子会長から、「近隣のある大学では、一年生の時から自分の将来について考える『キャリア・デザイン教育』を採り入れることになったと聞きました。在学生の皆さんも是非、早い時期から自分の将来を考え、希望する就職を実現させてください。」との熱いメッセージが送られ、会場から拍手が沸きました。

(外英80期 古賀敦子)

## 西南学院中学、高校の新校舎見学

暖かい春の午後、真新しい中高の校舎を見学しました。大学から歩いて五分、まず目に飛び込んできたのが、赤レンガの建物。正面の横にはもみの木、クリスマス木の時期にはすてきな飾りが施されるのでしょうか。また小さいその木が、これから学院の歴史とともに大きく育つのが楽しみです。

真鍋校長自らご案内いただき、まずはチャペルへ。重厚な扉を開けると、新しい木の香りが漂い、とても暖かい気持ちになりました。

吹き抜けの中の螺旋階段、音楽室、化学実験室、個人面談室、和室、どれも最新の設備が施されていて、ため息の連続。特に屋上のガーデニングは素敵でした。海風と百道の風景の絶妙なマッチング！写真を思わずパチリ。体育館、剣道場、柔道場、卓球場、これからいっただいどんな素敵なスポーツ選手が出るのでしょうか？

次に食堂、図書室。特に休憩室には、IT時代に対応して、自由にパソコンを使える設備があります。

全体にヨーロッパの重厚な学校を思わせ、新しさの中にも歴史を感じる校舎でした。

(旧教85期 山田啓子)



# 学部は今々法学部法律学科

本学の法学部には、法律学科と、その後増設された国際関係法学科があります。国際関係法学科はすでに白ゆり4号で紹介されていますので、今回は法律学科にスポットをあててみたいと思います。

## 法律学科の特色

法学部法律学科は、一九六七（昭和42）年に誕生し、四年後の一九七一年には大学院（法学研究科法律学専攻修士課程）を開設、本学における大学院教育の先駆けとなりました。一年次は導入科目（例えば、法律学入門、民法入門等）で基礎作りを行い、各学年において、それぞれにふさわしい演習（ゼミ）を用意し、多様な科目履修が可能となっています。

法科大学院完成予想図



就職に関して

二〇〇二年度からは、学内単位互換制度が発足しました。また、国際関係法学科には従来から模擬国際裁判の科目がありましたが、二〇〇一年には、模擬裁判専用の法廷教室が造られました。それを契機に「西南カップ模擬裁判競技会」が開催され、白熱した戦いが繰り広げられています。

は、現在厳しい就職環境の中でも、昨年の就職内定率は88%と高く、民間企業を中心に多方面で活躍

しています。特に、公務員に人気があり、公務員になる比率は他学部より高くなっています。

## 法科大学院開設

現在の法学部大学院とは別に、今話題の「ロースクール」、実務法曹を養成する新しい教育機関「法科大学院」が、二〇〇四年四月に開設される予定です。法科大学院とは、法曹すなわち裁判官、検察官及び弁護士を養成する高度で専門的な職業教育を行う大学院レベルの教育

## 多田利隆法学部長へのインタビュー

多田教授は、西南学院大学に在職されて9年目、現在法科大学院設立の準備でお忙しい毎日です。「法科大学院は法曹になるための高度な専門教育機関としての役割を担うことになるが、それでは、これからの法学部の役割は何であろうか。それは、教養的要素、例えば、歴史、哲学、経済、社会学、心理学と関連させながら、法律を学んでいくことで、広い視野に立った総合的な問題解決能力を



身につけること。さらに他方では、学生の進路に合致した多様で実践的な力リキラムを整えることが求められるでしょう。また、法学部の学生の印象は、相対的に真面目な学生が多いようだが、私の講義では、二年位前から、私語を注意しなくてはならなくなつたのが残念です。」とのお話でした。

最後に卒業生に「堅実な道を選ぶのもよいが志を持って羽ばたいて欲しい。是非、法科大学院に進学し法曹になることも考えて欲しいです。」とのメッセージをいただきました。初対面ということもあり、少し緊張してお訪ねしましたが、にこやかに迎えてくださり、二時間近くも有意義なお話を伺うことができました。

（法法74期 水城啓子）

機関です。法曹になるためには、超難関の司法試験に合格することにすべてがかかっていました。この「一発勝負」的なシステムを改め、法科大学院の3年間の教育を通じて、法曹に求められる真の資質、能力を本格的に養成しようとするものです。入学資格は原則として法学部の卒業生ですが、他学部、他大学出身者あるいは社会人に対しても広く門戸が開かれています。ちなみに、一九七四年当時、法律学科の女子学生の比率は10%足らずでしたが、現在は45%となっています。一方、司法試験合格者のうち4人に1人が女性という時代に、法学部設立から35年経った現在、延べ合格者数15人中女性1人というのは、少し淋しい気がします。法科大学院設立をきっかけに女性にもチャレンジしてもらいたいものです。

## セピア色の一枚



一九六二年の女子寮（当時、地行西町にあった）のクリスマス会の写真。舎監が大森先生、寮母さんが浅川のおば様。今はお二人ともお亡くなりになりましたが、楽しい青春時代を過ごさせていただきました。六時半起床、点呼。お食事当番、お風呂当番、石炭ストーブの掃除当番・・・朝食と夕食は全員揃ってお祈りをしてから。門限は十時と、今の寮とは大違い。

この頃から女子学生が多くなりだし、一九六三年度からは、二年生までしか寮に居れなくなりました。

（経経65期 洪田壽子）



青山治美さん  
(法学部法律学科74期)

今回ご紹介するハンサムウーマンはRKB毎日放送の事業部で活躍中の青山治美さんです。

青山さんは在学中に「愛好会・劇団はるうん」の旗揚げに参加し、七〇年安保を受けた学生運動たけなわのキャンパスで、演劇への情熱を燃やしました。お金も部室もない愛好会の立ち上げは「人の敷いたレールの上を走りたくない」という青山さんの心意気を示すものでした。

卒業公演には当時の劇団四季の向こうを張って、ジャン・ジロドウの「間奏曲」を選び自ら、加賀まり子が演じたイザベール役で主役を演じました。卒業と同時に

アナウンサーとしてRKBに入社、折りしも新幹線博多乗り入れの時、いきなり永六輔さんの相手役として特別番組に抜擢されるという華やかなスタートを切ったのです。

またスタートしたばかりのRKBニュースワイドのお天気キャスターというレギュラーも持ち、後に続く女性たちの憧れの存在となりました。しかし華やかに主役をはるより、自分でものを創り上げる方が好きと主張する彼女はその後、地味なラジオ番組をこつこつとつくり続け、いのちをテーマにした番組やドラマなどでいくつかの賞を受賞し、作り手としての実績を積みまます。

同期入社したRKBマンと結婚後、二人の子育ても見事にこなし、息子さんは行政マンとなり、大学二年生の娘さんは薬剤師を目指して勉強中と、母としての仕事も仕上げの段階に入ってきました。

家庭をホームグラウンドにした彼女は女性として「いのち」をライフワークにしており、地域では臓器バンクのキャンペーンをゴダイゴのメンバーである友人たちと続けています。

さらに事業部に異動後は西南時代に培ったかつての演劇少女としての真骨頂を発揮、二〇〇二年秋、母校である筑紫女学園高校の講堂が取り壊し寸前と知るや、これを利用してにわかじたいの舞台を作り、蜷川幸雄演出によるシェイクスピア劇「夏の夜の夢」を上演します。

画期的なこの手法は話題を呼び、およそ一万人の市民を感動の渦に巻き込んだのです。お客様を迎えるために講堂のトイレル飾り付けまで自分で汗をかいたそ

の仕事振りは社内外の高い評価を勝ち取りました。

女性の仕事の仕方もさまざまですが、肩をいからせず、周囲の人々との信頼を大切に暮らしてに根ざした彼女の生き方は

本年度第5回目となる「新春のつどい(名刺交換会)」が、一月二四日、ホテル日航福岡で開催されました。本学OG約七十人のほか、ご来賓として本学のシート院長、村上隆太学長、同窓会顧問の川久保敏彦氏、九州大学女子卒業生の会「松の実」会長、福岡大学同窓会(社)有信会レディースクラブ会長などのご出席をいただきました。

RKB毎日放送の納富昌子さん(外英76期)が司会を務める中、洪田壽子会長(経経65期)がこの会を利用して、参加者

実に自然体で、その姿は「女性が子供を産みいのちを育みながら仕事を続けているのは当たり前のことよ」と教えてくれているようです。

(外英76期 納富昌子)



## ネットワークを広げた名刺交換会

～第5回 新春のつどい～

との交流を深め、ネットワーク作り役に役立ててほしい」と挨拶した後、ご来賓を代表して村上隆太学長が「時代とともに女性の活躍する場が増えてきています。今後の「西南ゆりの会」の発展とOG一人ひとりの働きに期待しています」と祝辞を述べられました。会では、本学管弦楽団OB・現役学生からなる「西南チエンパーオーケストラ」の演奏や本学文学部外国語学科フランス語専攻の武末祐子教授(外仏77期・院仏79期)によるスピーチなどがあり、同窓生らはお正月気分の残るなごやかな雰囲気の中、名刺交換や、それぞれの近況を報告しあうなど、お互いのネットワークを広げる有意義な時間を過ごすことができました。

(外英80期 古賀敦子)



2003年新春のつどい名刺交換会  
西南ゆりの会



**人生を考えるきっかけ**

親しい人の病気や死が人生を考えるきっかけとなった事が幾度かあります。十三年前イタリア行きを決めたのは、ある先生の病気を知ったからです。若かった私には、尊敬する女性教師の病気が不当に思え、「人生は何が起るかわからない。やりたい事は先送りしてはダメだ」と決断し、出発前日まで父には知らせず、飛行機に飛び乗ったのです。私がやりたい事、それは声楽でした。

一九九一年五月、フィ



彼は美容師ですが、その情熱は演劇に捧げられていて、彼が中心に活動するアマチュア劇団に誘われて五年が経ちます。自分の仕事もあり満足な練習時間もない、それでも全力を出して、舞台では観客から総立ちの拍手を受ける。この拍手こそが私たちの努力の報酬だと私は思っています。

そんな中で、

**音楽仲間との出会いと別れ**

その後二年間は音を聴くのも苦痛でしたが、また音楽に触れようかと感じ始めた頃、知人から音楽教師を紹介され、更にそのレッスンを受ける中でマルコと知りあいました。

彼は美容師ですが、その情熱は演劇に捧げられていて、彼が中心に活動するアマチュア劇団に誘われて五年が経ちます。自分の仕事もあり満足な練習時間もない、それでも全力を出して、舞台では観客から総立ちの拍手を受ける。この拍手こそが私たちの努力の報酬だと私は思っています。

そんな中で、

**そして、今**

この夏のフィレンツェは暑く、八月には40度を越える日もありました。この街は盆地で真ん中に川が流れ、湿度も高いので体感温度は45度を越えていると思います。そして今年「虎蚊」が出て、羽音も無く刺していくので不快感は相当なものです。

フランス程ひどくはありませんが、イタリアでも老人や病人を中心に死者が出ています。でも前のお宅から植木鉢四鉢、友人の子供からハムスター二匹を預かったので休暇に逃げ出すことも出来ません。

うちもクーラーがなく家の中の気温は34度まで上がるので、預かっているハムスターが死んでいないか、外から帰る度にヒヤヒヤする毎日です。しかしフィレンツェは我が町、私にとっては、もはや第二の故郷です。

## フィレンツェで暮らして 蔵本 浩美

(外仏86期)



今回の「海の向こうから」では蔵本浩美さんをご紹介します。蔵本さんは一九八六年文学部外国語学科仏語専攻卒業、一九九一年大学院文学研究科博士前期修了。学部在学中は交換留学生としてフランス、グルノーブル第三大学に一年間留学。又チャペルクワイアでも活躍されました。

一九九一年からオペラの本場イタリアに住み、通訳ガイド、翻訳、日本語教師等の仕事をしながら、声楽の勉強を続けていらっしやいます。

レンツェでまずイタリア語の学校に通いましたが教師の教え方に満足できず、次にフィレンツェ近郊のフィエーゾレ音楽学校に入学、三年間通いました。一番楽しく充実した時期でした。日本の音楽教師の友人(フィレンツェ市立劇場のヴィオラ奏者)に付いてイタリア中にオペラを観に行きました。貧乏学生で早朝列車で出発、夜行列車で帰るという無茶をして、三年間で百以上のオペラを観ました。学校の教師陣にも恵まれましたが、アメリカの新音楽技法は私の声帯に合わず、毎春声帯が腫れ、その都度副腎皮質ホルモンを服用。三年目は特にひどく、一ヶ月以上も話す声すら出さず退学を余儀なくされました。

**音楽仲間との出会いと別れ**

その後二年間は音を聴くのも苦痛でしたが、また音楽に触れようかと感じ始めた頃、知人から音楽教師を紹介され、更にそのレッスンを受ける中でマルコと知りあいました。

彼は美容師ですが、その情熱は演劇に捧げられていて、彼が中心に活動するアマチュア劇団に誘われて五年が経ちます。自分の仕事もあり満足な練習時間もない、それでも全力を出して、舞台では観客から総立ちの拍手を受ける。この拍手こそが私たちの努力の報酬だと私は思っています。

そんな中で、

昨年八月、彼にリンパ腺癌が発見され今年三月に亡くなりました。

十二年前の尊敬する先生の病気は、私に機動力を与えると同時に逃避の道を開きました。フィレンツェに住み始めて文化風習の壁の前に逃げ出したり、この街を形骸化した死都と侮蔑したこともありましたが、私は徐々に仕事と住居と友人という骨組みを築き、この街の中に自分の空間を広げていきました。ありのままの私を受け容れ愛してくれる人々、またありのままの姿を受け容れるよう私を導いてくれた人々。

彼の死は私の生活空間の一部をえぐり取っていききました。しかし、この哀しみを抱いて日常生活を生きる事が、ここフィレンツェで十二年経った今の私に課された課題なのかもしれません。

## 京都桜巡りで交流



関西支部「良か女性の会」が企画

大学同窓会関西支部の中には女性の有志からなる「西南良か女性の会」があります。本年四月六日、「京都桜巡り」を企画。今回特に関西以外の女子同窓生にも参加をよびかけられましたので、西南ゆりの会本部から渋

田壽子前会長、吉田扶久子現会長、田村明美会員の三名が参加。東京や名古屋、長崎等の遠方から駆けつけた同窓生も加えた約三〇名と共に、桜花爛漫と咲き誇る京都の春を満喫、かつ交流を深めました。

当日は日曜日とあって、花見に繰り出した人々で全市大変な混雑ぶり、地元のお世話役の方々は随分ご苦労をされたと思います。皆さんの心のこもったもてなしをして下さいました。紙面を借りて、御礼と共に「西南良か女性の会」の一層のご発展をお祈り致します。

なお、蛇足ながら、渋谷、田村の両名は折角来たのだからと、その夜は丸山公園、翌日は二条城さらには醍醐の花見まで欲張り、満開の桜に酔いしれ、古都の逝く春を心ゆくまで惜しんだことでした。

(文英61期 田村明美)

02年秋のつどい返信はがきから

井上己巳子 (文英51期・都築)
学校で学んだことを活かされず過ぎ
て参りましたが、ささやかなボランティア
をさせて頂きまわりの人々から元気を貰っ
ています。

中尾 貞子 (児教52期・森)
上海で生れ育ち昭和二二年引揚げ、児教
科短大一回生で学びました。其の時代の先
生方・クラスの方々、実りの多い楽しい時
でした。

塩田 敬子 (児教52期)
残念ながら病のため出席できませんが梓
書院様はじめ皆々様の御苦労が良くわか
ります。何も出来ませんが、だ祈らせて頂
きます。

山内 純子 (児教56期・坂本)
これからは大学も少子化で様変わりする
世の中ですが、感謝・奉仕・祈りの西南ス
ピリットだけは若い方々に受け継いで頂
きたいと思えます。西南に学んで良かった
いつも母校を懐かしく思い出します。

長野 友子 (文英57期)
15年前に主人を亡くしましたが、後を引
継いで仕事を続けて参りました。来年17回
忌を迎えますが、元気な間は仕事を続ける
つもりです。

白井 絃子 (文英63期・阿比留)
先日は日経で田村さんの仕事を拝見致し、
大変嬉しく存じました。

神田 幸子 (文英66期・石井)

私は六月NHKラジオに出演、その後中
国東北地区慰霊の旅に同行、黒龍江省方正
県の日本人公墓の前で目下ライフワークに
しているひとり芝居「帰ってきたおばあさ
ん」を奉納、日中両国の方々が涙涙でした。
十月二十九日(月)「俳優座」昼夜二回公演に

東奔西走しています。

浅田 順子 (文英68期・鶴田)
ヤマハで、エレクトーンレッスンや茶道
をhobbyとして楽しんでいます。大学時代
は英文タイプ部でした。

野田ひろみ (文英68期・永田)

八女市・筑後市・広川町・立花町の二市
二町で作られた不登校児童・生徒のための
適応指導教室「あしたば」の主任指導員と
して昨年四月から五五歳という、周りの人
が社会の第一線から少し後へ引く歳で、不
登校生徒(中学生)と関わり始めました。
年々増える一方の不登校生達の学力・知識
だけでは足りないもっと大切なもの、心を育て
ていくこ
とに、私
の“心”を
込めてい
ます。こ
れからが
私の出
番!と思
っています。



副田 宥子 (文英68期・長倉)

先日盲目の歌手、新垣勉氏の音楽会に参
加いたしました。彼の歌、彼のスピーチに
ふれ、その温かさ、誠実さに心打たれ西南
のひろを彼の向こうに感じました。久し振
りに爽やかな気分でした。

秀徳 公子 (外英68期・箱嶋)

とても素敵なのりの絵の同窓会10号を手
に取り、卒業生の方々のご活躍の記事に感
心しました。『セピア色一枚』にはあつと
いう間に気持ちが自分の卒業式の頃34年前
に戻りました。

矢野安希子 (法律72期)

田代さんの「白ゆり」の絵、開いた花弁
は勿論、ふつくらとした蕾も美しくうつつと

りと拝見しました。

荒川たず子 (英専73期・青木)

度々ご案内を受けながら今回昼間とのこと
でやはり参加できませんでした。パンフの
作成・送付、役員をさせていただいた方々のお骨
折りに深く感謝の意を感じております。

柳瀬 啓子 (経営73期)

かけがえのない親子、夫と妻などの間
に心の通う関係をつくる講座(おやぎよう
訓練)を毎日文化センターで、また自分を
好きになるベルセミナー(名作を使って自
分を肯定し、成長させるセミナー)を朝日
カルチャーセンターで担当しています。朝日カ
ルチャーセンターでは担当の人が後輩とい
うことで嬉しく思っています。

令官恵理子 (外英75期・江崎)

今春から娘も西南に編入して愛校心も二
倍になった様で、益々の発展願っております。

江崎 俊子 (法律76期・高木)

「ひろば欄」に二度目の掲載、驚いたり

ロマネコンティの里



一九七四年大学四年の夏、私は2ヶ
月の語学研修の為フランスはブルゴー
ニユの古都デジョンに向かった。当
時の日本は、東京と札幌、二度のオリ
ンピックを開催して、先進国の仲間入
りを果たしたとはいえ、まだ高度成長
のまっさかりで、海外旅行も珍しかつ
た。デジョンは、中世の面影を残す
美しい古都、そして偉大なるロマネコ
ンティの里。その洗練された街並と豊
かな生活は、ワインとチーズの味と共
に私の心に刷り込まれた。

大学卒業と同時に結婚した私は専業

大学募金にご協力をお願い

西南学院大学は、創立九〇周年(二〇〇
六年)までに大学チャペルの建て替えと学
外連携施設(大学と地域社会や卒業生との
コミュニケーションを活性化させるための施
設)の建設を予定しています。

右記事業は主に大学に関係する施設であ
るため、今回の募金は特に大学関係者を対
象に五億円の目標額で寄付の要請があつて
います。

女子同窓会では、三年間で六〇万円の目
標額が提示されていますので、できる限り
の支援をさせていただこうと考えていま
す。女子同窓生の方々のご協力を何卒よろ
しくお願い申し上げます。

詳細は左記へご一報下さい。募金趣意書
等を郵送させていただきます。
(連絡先) 092-526-2288
吉田税理士事務所 吉田扶久子
西南学院大学の会長 吉田扶久子

主婦としての日々を過ごし、子供たち
が手を離れてからフランス語の勉強を
再開、ワイン教室にも通い始めた。そ
こで再会した懐かしいブルゴーニユワ
イン。一口飲んだとたん若い日のあ
の街並が蘇った。若い日に美しいフラ
ンスに出会い、偉大なるワインを知り
えた私は幸せだった。おかげで、日本
ソムリエ協会のワインエキスパートの
資格を得た私は、今我が家でささやか
なワイン教室を開いている。ワインの
素晴らしさと、ワインを通してフラン
ス文化を伝えること、それが、若い日
私を受け入れてくれたあの街と、優し
く接してくれたあの街の人々に対する
恩返しのような気がしている。

(外仏75期 桑野綾子)

喜んでいました。この夏から福岡市に新しく誕生した『コミュニティ推進員』として勤務しています。どこに行っても一番感じるのは『女性パワー』の頼もしさです。男女共同参画社会の実現を白ゆり達がしっかりと支えています。

松田 淳子 (外仏77期・猪股)

先日中村栄子先生の講義を聞きに何十年ぶりかで大学を訪れ、懐かしさで一杯でした。先生もお変わりなく若々しく、元氣一杯の講義でした。

小山千鶴子 (児教78期・西島)

ひろばはいつも楽しみです。同級生や知人が載っていないかと探すんです。卒業して25年、子供達も成長し、そろそろ懐かしい同級生に会ってゆつくり話がしたいものです。先生方もお元気でられることを祈っています。

間地 陽子 (文英77期)

子供が大学に進学する年齢となり、月日の過ぎるのがこんなに速いものかと、ただただ驚いています。学生時代真っ黒になってテニスコートを駆けていた日々が昨日の様に思い出されます。

西 雅子 (文英78期)

不況のせい、周りで明るい話っていないです。小・中学校時代の恩師や同級生が亡くなったという知らせを聞くようになり、寂しい思いをすることも。しかし、たまに卒業以来20年以上もお会いしていない同級生とたまたま出会って、私は覚えていないのに声をかけられたりして、嬉しい思いをすることもあります。

西 弘子 (外英80期・江川)

主人の転勤に伴い、20年ぶりに福岡市へ戻ってきました。西南の周辺の地域もすっかり様変わりしていることに驚きです。

加藤 広子 (経済81期・前原)

主婦に子育てに忙しい毎日を送っていますが、いつも、西南学院大学卒業生という誇りを持って生きています。

誇りを持って生きています。

松田 雅子 (児教84期・藤本)

主人の転勤で広島や金沢へ…。その度主人の会社の方に西南大卒の方がいらして、嬉しくそして不思議な出会いを感じました。

井上たまみ (国際84期・豊辻)

遅ればせながら五歳と三歳の娘の育児に奮闘中です。自由な時間が一番持てたあの大学時代が懐かしい今日この頃です。

吉田 敏美 (児教86期・広松)

18年前に教育実習させて頂いた舞鶴幼稚園に息子を通わせています。園長はゼミの教授の井上哲雄先生です。とてもご縁を感じながら、毎日通園しています。

波多江磨里子 (経済87期・角田)

子どもが小さいため日中なら、つどいに参加できるか？と思っておりましたが仕事があるため参加できず残念です。機会がありましたらぜひ参加したいと思っております。

高尾 晴美 (文英88期・三原)

一年位前から英会話スクールに通い始め今年の五月にはTOEICの試験を受けました。又更なる飛躍を目指して頑張っております。

野上 順子 (商商92期・藤井)

子育てに忙しく、行事に参加することはできませんが、時折届く会報に目を通すことが、学生時代を懐かしむ唯一の時間です。

城戸 千恵 (文英93期・児玉)

九年前勤務した損害保険会社を昨年退職し、現在は育児に追われる毎日です。実家に帰った際に必ず西新を子連れで散策し、学生時代を懐かしく思い出しています。

奥田 宣子 (経国・94期・岩見)

昨年末、故郷広島へ帰って参りました。同じく昨年末に長男が生まれ子育てに追われる毎日です。来年度の社会保険労務士の資格試験にチャレンジしようと思っております。不安ながら頑張ってみるつもりです。

卒業後就職して三年間東京にいた為か会報を初めて拝見させて頂きました。西南で出逢えた友人達は本当に宝物です。環境が変わってもずっと大切にしていきたいです。

03年春のつどい返信はがきから

藤原 良一 (文英45期)

昨年来の税法商法の改正に伴いクライアントの実情に照らし個個に対応指導に毎日を忙しく過しております。

村田三恵子 (商商63期・松本)

生涯学習、生涯仕事と前向きに明るく元気に歩いて行っています。

永谷美智子 (文英72期・亀水)

同級生も50歳を過ぎると不確実なことも増え、会う機会も貴重になります。今年はロシア料理の「ツンドラ」にAクラス9名が集まりました。卒業以来の懐かしい人も多く楽しいひと時でした。

矢田 晶子 (文英72期・国重)

女子学生が年々増えているそうで女子大になりそうですね。後輩の活躍が愉しみです。

小山千鶴子 (児教78期・西島)

女子学生が益々多くなっている母校ですね。新春の集いはまだ参加したことがありませんが、主婦なので名刺は持つておらず、ちよつと敷居が高く感じられるのは私だけでしょうか？

中村さとみ (文英87期・高橋)

昨春秋、夫の仕事の関係で西南中・大に行く機会があり、大学の同級生の夫と学食でランチを頂きました。久しぶりに学生気分を味わいました。普段は子育てに一生懸命の毎日です！

博多座

ゆりの会 スーパー歌舞伎を堪能

ゆりの会特別研修会「博多座見学」が、五月十一日開かれました。博多座の五月公演は、市川猿之助さん主演・演出のスーパー歌舞伎最新作「新・三国志Ⅲ完結編」。

平和な国の実現のため、命をかけて立ち向かう魏の武将・譙凌の活躍を描いた完結編は、世界で地域紛争や民族間の争い、テロが発生している情勢ともあいまって、私たちに「平和の尊さ」そして「信じて生き抜く」ことの大切さを心に語りかけてくるものでした。

「博多座は、スーパー歌舞伎が日本で一番似合う劇場」と猿之助さんが言われるだけあって、その舞台装置は見事で、歌舞伎鑑賞とともに満悦の日でした。

(法法73期 井原絹江)



2002年度収支報告 (2002年4月1日～2003年3月31日)

2002年度西南ゆりの会事業報告

(2002年4月1日～2003年3月31日)

1. 収入の部

項目	収入額	備考
繰越金	16,804円	2001年度より
同窓会補助金	400,000	西南学院大学同窓会より
講演会会費	440,000	秋の集いお祝い金、新春の集いお祝い金、会費5,000×60名
ミニサロン会費等	50,000	会費2,500×20名
寄付金取りくずし	1,050,000	ゆりの会への寄付金より
雑収入	1	普通預金利息
収入の部合計	1,956,805	

2. 支出の部

項目	支出額	備考
講演会費等	577,607円	秋の集い 会場花代 新春の集い ホテル日航パーティー費用
ミニサロン費	63,945	会場費
講師謝礼	190,000	秋の集いパネラー謝礼 新春の集い西南チェンバーオーケストラ謝礼
慶弔渉外費	33,520	他大学同窓会総会、パーティー出席費用
通信費	351,140	「白ゆり」、秋の集い案内状発送
印刷費	496,003	新春の集い案内状発送
会議費及び事務所費	80,220	役員会会場費、事務所費
特別費	156,120	サラムッポ会寄付、総会チケット代一部負担
雑費	2,932	事務用品、コピー代等
繰越金	5,318	2003年度への繰越
支出の部合計	1,956,805	

- 西南ゆりの会総会  
日時 2002年6月14日(金)  
会場 ソラリア西鉄ホテル
- 西南学院大学同窓会総会  
日時 2002年6月14日(金)  
(ゆりの会総会と同日、同会場)  
積極的に参加する
- 西南ゆりの会機関誌「白ゆり」第10号(記念号)  
2002年9月1日発行ならびに発送
- 西南ゆりの会第15回秋の集い  
日時 10月16日(水)午後3時30分～午後5時  
会場 西南会館3F大ホール(西南学院大学内)  
対象 在学女子学生  
テーマ 女子卒業生によるシンポジウム  
「私は就職戦線をこう戦った  
-先輩キャリアの経験談」
- 第5回新春の集い(名刺交換会)  
日時 2003年1月24日(金)  
会場 ホテル日航福岡
- 第26回ミニサロン  
日時 2003年3月26日(水)  
会場 レストラン博多大丸鴻臚  
テーマ 介護保険制度について
- サラムッポの会援助  
フィリピンの女子学生に奨学金(1名を卒業まで)
- 役員会  
毎月1回第3水曜日(昼と夜を交互に)  
その他必要に応じて  
名簿整理、発送作業等 随時
- 各委員会(広報・名簿・事業)  
必要に応じて随時

カンパのお礼とお願い

昨年度も多くの方からカンパを頂き本当にありがとうございました。当会はいわゆる固定の会費徴収を行わず学院同窓会からの補助金(年額四十万円)で運営されています。経常の活動費、秋のつどいやミニサロン等の行事関係、会報白ゆり三千部の制作費、郵送費等、補助金だけでは到底賅いきれない現状です。せめて会報が卒業生全員にお届けできればと願っているところです。皆様からのカンパ金のおかげでこうした活動が続けられていることに感謝し、ここに重ねて厚くお礼を申し上げます。

何卒事情ご賢察の上、本年もカンパを切にお願いする次第です。お志のある方は同封の振替用紙で一口千円(何口でも)お振込みいただければ幸いです。

なお、昨年度カンパして頂いた方のお名前を感謝と共に記させていただきます。万一手違いのためにお名前が洩れている方がいらつしやいましたら、お手数でも一報下さいますようお願いいたします。

郵便振替番号 01710985645 (西南ゆりの会)

(会長 吉田扶久子 092-5262288)

青山容子、荒川たず子、荒木真理子、荒武勢津子、有島径子、五十嵐教子、井口紀子、石神美代子、井上睦子、井原絹江、岩尾豊子、岩切裕子、上原美千代、内海昌子、内海このも、馬屋原美津子、浦部ミドリ、江副史子、大嶋悦子、尾崎維津美、尾崎美子、尾崎恵子、岡悦子、岡部葉子、岡村裕美、門田洋子、嘉村理実、嘉村由紀子、亀井雅子、神田幸子、喜多嶋美美子、北原明子、日下部千春、草場久子、楠原町、黒岩絹代、桑野綾子、興膳みどり、河野信子、古賀敦子、古賀三工、坂本薫、坂本純子、佐藤陽子、塩田英子、白井紘子、柴田朝子、洪田壽子、白石浩子、白水心子、末松和子、鈴木牧子、鈴木黎子、高丘和子、高見征子、高山和代、武末祐子、立石智子、田中京子、田中寛子、田村明美、辻隆子、土井光子、土井美弥子、徳王雅美、中尾貞子、永谷美智子、中島侑子、中野和子、中村和子、中村笑、納富昌子、野副信子、野見山哲子、藤井幸子、藤木規美子、藤沢侑子、星子孝枝、松永恵子、宮崎朝子、宮崎孝子、宮田佳周、宮田知佳、宮原三和子、屋出真枝、屋敷智子、柳原緑、矢野多美恵、山内純子、山内律子、山口孝子、山崎美知子、山田啓子、吉武美智子、吉田敏美、吉田扶久子、吉村雅代、淀川良子、渡辺珠子

編集後記

ゆりの会の会報の編集は初めてでしたが、西南ウーマンがもつと地域に根を張っていきいきと輝くためのコミュニケーション誌となるよう願っています。吉田会長の新体制のもとさらに若い層の会員発掘に努め、会員の幅を拡げてゆくためにも会報の果たす役割は大きいと思います。皆さんとともにいいものをつくっていきましょう。

(外英76期 納富 昌子)

初めて白ゆりの編集に携わりましたが、先輩方に編集のいろはから教えて頂き大変勉強になりました。

ゆりの会の今後の発展のために微力ながら精一杯お手伝いさせて頂きたいと存じます。

(文英92期 鈴木 牧子)

各分野での西南OGのご活躍をお伝えできましたでしょうか。今後の皆様のご活躍をお祈り申し上げます。

(商経76期 吉村 雅代)

少しでも読み易く!と文字を大きく、紙面をA4版に変えました。皆様如何でしょうか。尚、ゆりの会連絡先は下記に変わりました。

(国際85期 山内 律子)